「日々の理科」（第 1958 号）　2019, 11, 18

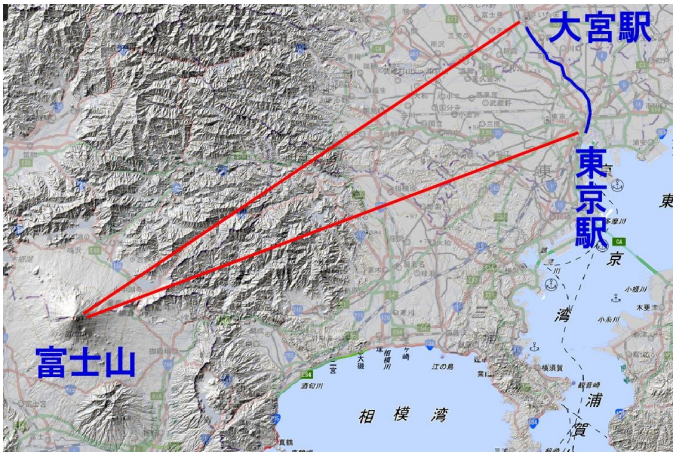
「東京-大宮間の夕暮れ（２）」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

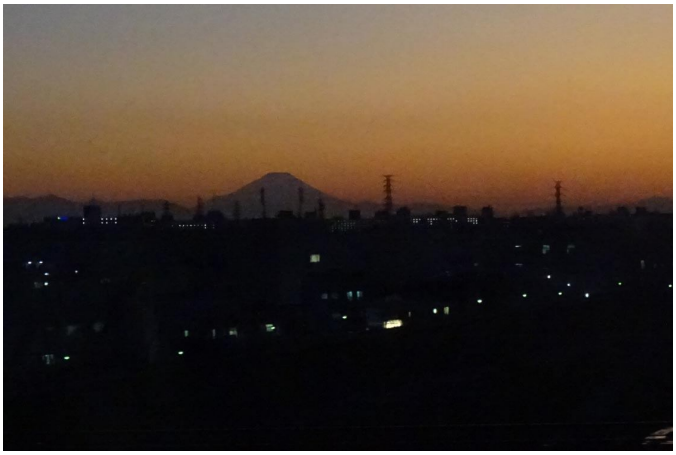
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中　千尋　Chihiro Tanaka

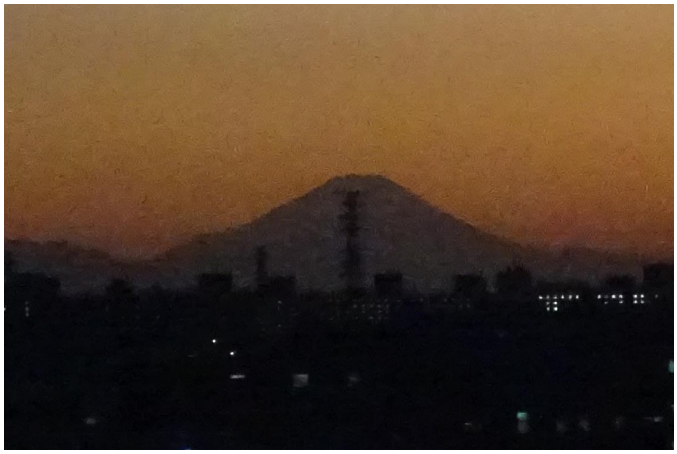
東京から見た富士山の方角は、直感的に「真西」と思いがちであるが、実はちがう。真西よりもかなり南にずれていて「西南西」に近い。



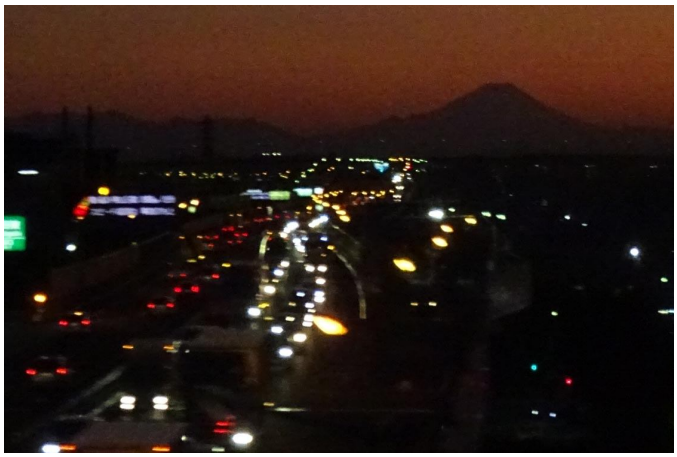
新幹線は大宮に向かってほぼ北に進むので、富士山の見える方角は、どんどん南よりに変わる。もちろん富士山は左側の車窓に見えるので、左側の座席（二人掛けのＤＥ席の、窓側のＥ席）を確保する必要がある。それでも富士山は車窓真横に見えるわけではなく、「左斜め後ろ」に見えることになる。気を付けていないと、富士山が見えることに気づかないだろう。



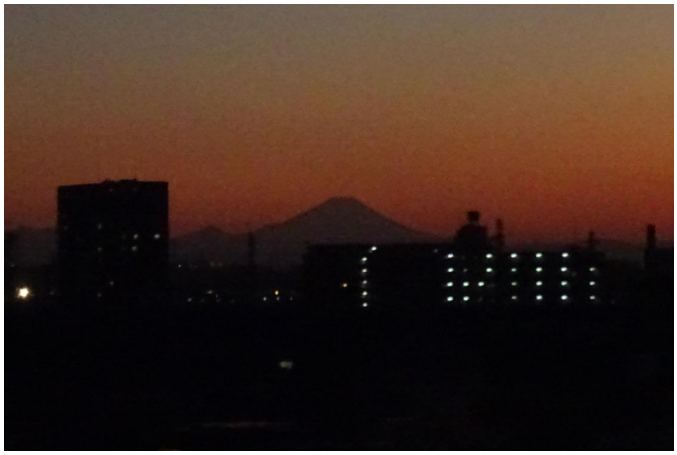
荒川橋梁を渡って埼玉県に入ると、線路の近くに高い建物が目立たなくなり、遠くの富士山の全景が見えるようになる。「全景」といっても、手前には丹沢山塊の「塔ヶ岳」や「蛭ヶ岳」があるので、見えているのは標高 2000m よりも高い山肌だけだろう。それでも夕暮れ時の富士はやはり美しい。見ないと損である。



それにしても、スマホカメラの性能はすばらしい。こんなに暗くなっているのに、富士山の部分だけを拡大しても、はっきりと写っている。



しばらく進むと、高速道路（外環自動車道）をまたぐ。車の前照灯・尾灯の流れと、富士山のシルエットの対比が美しい。



大宮駅が近づくと、マンションが増えてくる。しかも時刻が遅くなり、ますます空が暗くなってきた。北陸新幹線は水害の影響で、平常時よりも本数が少なく混んでいる。私が何枚も「窓の写真」を撮っているので、となりのご婦人は「このおっさん何撮ってんの？」と思っているだろう。このへんでやめておこう。